

2023年度第1四半期
テレフォンカンファレンスにおける主要質疑応答（2023年8月9日開催）

※テレフォンカンファレンス開催日（2023年8月9日）時点の情報に基づく内容です。

1. 2023年度第1四半期決算について

質問	回答
第1四半期の粗利益率（9.9%）が、期初の業績予想の粗利益率（8.5%）に対して上振れた要因は何か。プラス要因とマイナス要因を教えてください。	プラス要因は円安による影響である。マイナス要因は、期初予想で折り込んでいた固定費増、遂行中案件で発現したリスク発現による影響である。結果として期初予想と比べて1.4ポイントの上振れとなった。
遂行中案件で発現したリスクとはどのようなものか。	国内案件の工期延長によるコスト増のリスクを会計上この四半期に取り込んだものである。通期業績予想としては期初に織り込み済みで金額インパクトも大なものではない。
新たに売上高を計上し始めた案件で採算の悪化は出ていないか。	売上が上がってきている新しい案件としては、マレーシア、サウジアラビアのものがある。個別案件の収益性については回答を差し控えるが、想定通りに進捗している。
第1四半期の売上高の進捗率が低い、期初の売上高見通しは達成できるか。	昨年度に受注した案件は、下期にかけて進捗が伸びていくと考えている。加えて、国内案件は年度末に売上高が伸びることが多い。従い、下期にかけて期初の売上高見通しに近づいていくと考えている。

現在の為替感応度を教えてほしい。	あくまでイメージであるが、売上高で 40 億円、粗利益段階で 5 億円、経常利益段階で 8 億円となる。
------------------	--

2. 受注・マーケット環境について

質問	回答
プラント市場の変化および新たな受注期待案件などがあれば教えてほしい。	全体的には大きな変化はない。5 月にご説明した通り、天然ガス・LNG を中心とした顧客の設備投資計画は着実に進んでいる。加えて水素・燃料アンモニアなどのサステナブル関連案件の投資計画も順調に進んでいる。 国内においては、ライフサイエンス分野の設備投資が引き続き堅調で、海外と同様に水素・燃料アンモニア、SAF などのサステナブル関連案件の投資計画が順調に進んでいる。
北米で受注を期待していた案件の状況はどうか。	入札したいずれの案件とも、現在顧客のクラリフィケーションが進んでいる。一部案件では、他社に初期投資費用削減のための作業が発注され、当社の受注は厳しいと考えている。今期は、他の国・地域でも様々な案件があり、実現可能性が高く、確実に収益をあげることができる案件を選別し受注していく方針に変わりはない。
中東での受注期待案件の中で、建設現場が変更になった案件があると聞いているが、今年度内のコントラクター決定は厳しいのではないか。	顧客からは今年度中にコントラクターを決定すると聞いている。当社も今年度内の受注を目指していく方針である。
北米で期待していた案件の受注が厳しいとなると、今年度の受注目標達成は難しくなるか。	当社の今年度の受注期待案件として、中東やアフリカなどにも LNG 案件や天然ガス処理案件などが存在する。加えて、国内外でサステナブル関連分野（CCS やブルーアンモニア）の案件の受注も期待できる。これら案件を着実に積み上げることで受注目標を達成していく。

CCSは既設設備に後から設置するものか。受注金のイメージはどのくらいか。

プラントの新設時に付属設備として設置するケースと既設設備に追加で設置するケースの両方が考えられる。今年度に受注を期待している案件は既設設備に追加で設置する計画である。受注金のイメージは数百億円規模である。

以上